

被爆80年ヒロシマから「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現を!!

2025ピースアクションinヒロシマ

〜平和とよりよい生活のために〜

とちぎコープは誰もが安心してくらせる社会づくりに貢献することを目指し、事業や活動をすすめています。
「くらし」の基本は平和であること。戦争の惨禍を学び、次世代に繋ぎ・伝えるため、平和活動に取り組んでいます。



毎年8月に被爆体験の継承や核兵器のない平和な世界を求める想いを共有する場として、全国の生協の組合員やその家族が参加・交流する「ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」が開催されています。今年、とちぎコープからは、

8月4日・5日の「ヒロシマ」に小学生を含む組合員親子・理事・職員あわせて12名が参加しました。ガイドの案内で原爆の遺構や慰霊碑（原爆ドーム・レストハウス・原爆の子の像・原爆死没者慰霊碑・供養塔・原爆の絵碑・本川小学校平和資料館）をめぐり、その後平和記念資料館を見学。また、被爆者から直接証言を聞くなかで、80年前のきのこ雲の下での出来事、その後の歴史や復興への歩みなど、被爆の実相と被爆者の想いに触れることができました。

8月6日は平和記念式典に参列しました。

《碑めぐりより》

平和への願いを託して
千羽鶴を
「原爆の子の像」に奉納

平和記念公園にある「原爆の子の像」。モデルとなった佐々木禎子さんは運動が得意な活発な少女でしたが、被爆から10年後、12歳で発病しました。回復を願って鶴を折り続けましたが、9カ月後に帰らぬ人に。この死をきっかけに、禎子さんの同級生たちが原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め、世界に平和を築くために運動を始め、全国からの募金で像がつくられました。毎年、国内外から一千万羽もの折り鶴が奉納され、その折り紙の再生事業も行われています。

今年、とちぎコープでは、組合員さんにご協力いただき、再生原料の折り紙を使って千羽鶴をつくりました。みなさんの平和への想いととも、参加した子どもたちの手で奉納しました。

被爆者が描いた絵が
街角に

生き残った被爆者が渾身の想いを込めて描いた《あの日の爆心地の光景》その絵を陶板にして街角に返す取り組みが行われています。今年、19年ぶりに11番目の絵碑が完成しました。建設にあたっては全国の生協に協力が呼びかけられ、とちぎコープも寄付に参加しました。



「虹のひろば」に参加

「虹のひろば」では、ダンスや歌などのステージ発表、地元の高校生や各地の生協や団体が行っている平和活動の紹介や展示、日本被団協事務局長の濱住さんからは胎内被爆者の証言などのお話がありました。



「虹のひろば」の動画を
ご覧いただけます



活動を振り返って

広島から戻って数日後、報告会を開催し、体験を通じて感じたことや学んだことを振り返りました。参加者の感想を紹介します。

・広島は栃木から遠く、周りに被爆者もいないため原爆に関しては同じ日本にいながらどこか他人事のように感じていました。実際に原爆ドームや、平和記念資料館で数々の遺品や写真などを目にし、胸が締め付けられました。特に子どもの服や日記などはわが子だったかと想像すると本当につらくて目を背けたくなりました。

・「被爆の体験はあまりにつらく、また、差別や偏見をおそれ話すことができなかった。それでも伝えることが使命だと考え、戦後何十年も経ってやっと口にすることができた」という方もいると聞きました。平和であることは当たり前ではないと思いました。

・平和記念式典で地元の小学生が述べた「平和への誓い」。その中の「いつかはおとずれる、被爆者のいない世界」という言葉にハッとさせられました。私たちは体験者の声を直接聞くことが

できる最後の世代なのだ実感しました。広島で学んだこと・感じたことを周りの人に伝えていきたいと思います。

・高校生が被爆体験者から当時の話を聴き、絵に表して原爆被害の状況を残す活動をしていたり、新聞部の生徒が記憶の継承や想いを未来につなぐために記事を書いたりしていることを知り、広島の子どもたちが平和について真剣に考えていることに感動しました。

・広島での3日間は、私たち親子にとって、とても大切な時間になりました。目を背けてしまうほどに恐ろしい事実が現実にあった。それでも平和を願う人々の想いがあることを千羽鶴を奉納し子どもは感じ取ってくれたのではないかと思います。



お知らせ

ピースアクションinオキナワ ～ 第43回沖縄戦跡・基地めぐり～

2026年3月に開催します。

ほっとインフォメーション11月号
(11月3日～配布)とホームページに
案内を掲載予定です
<https://tochigi.coopnet.or.jp/>

ピースアクションは、戦争・被爆体験の継承や、世界のさまざまな戦争や紛争、基地問題、憲法など、多角的なテーマで平和を考える生協独自の取り組みです。毎年広島、長崎、沖縄で学習講演会や交流会を実施しており、広島では1978年に生協の独自集会「虹のひろば」を中心にヒロシマ行動(2004年から「ピースアクションinヒロシマ」に名称変更)が始まり、今年で48回目となりました。

日本生協連 ピースアクション

<https://peace.jccu.coop/>

